

ある。

菜豆類では、金時で14年の十勝の実績が、近年発生が多い色流れなどの影響を受け、指標を671㌔下回る4789㌔だった。実需者が輸入品に切り替えるのを防ぐため、「安定供給体制の構築が急務」として指標面積は前年と同じ5460㌔とした。全道も前年と同じ6500㌔。

大豆（黒大豆を含む）は国産大豆の需要が広がる中で供給量が減り、入札価格も高値だったことから、十勝の指標面積も1260㌔増の5560㌔とした。全道も2880㌔増えて2万9330㌔。

■ビート

ビートは、全道の指標面積として前年と同じ6万6000㌔を設定。ただ、面積が減り続ける中で現実的に達成が難しい部分もあり、実践指標として6万288㌔を設定した。14年産は4月末の強風や凍霜害の影響もあって、十勝は実践指標2万5731㌔に対し、実績が770㌔少ない2

万4961㌔だった。今年から採用した地域輪作計画では2万6025㌔と前年の実践指標より増えたため、これを採用した。交付金額の上昇も踏まえ、実績がどの程度下げ止まるかが注目される。

■ジャガイモ

ジャガイモは、ヨーロッパ産ジャガイモでんぷんやタピオカでんぷんに奪われた需要を回復するため、十勝はほぼ前年並みの2万4353㌔とした。

■小麦

小麦は地域輪作計画をそのまま採用し、十勝は前年比2179㌔増の4万5039㌔。需給ギャップのある強力系3品種を除き、播（は）種期、用途別の指標面積は示していない。

指標面積は、持続可能な畑作農業を確立するために毎年設定。指標から外れても、罰則などは設けていない。

農業ガイド993号 ビート糖分に地域差 2014年産

2015年1月31日

道農政部は2014年産のビートの生産実績をまとめ、十勝管内の市町村別実績を公表した。最も糖分が高かったのは新得町の17.4%で、10万ト以上収穫した産地では更別村が17%と高かった。4月の凍霜害や病害虫の影響もあって地域差が大きく、経営所得安定対策の交付金基準糖度（16.3%）を下回る自治体もあった。

2014年産十勝のビート生産実績	市町村	作付面積	ha当たり収量	生産量	平均糖分
	帯広	3228ha	68.88トン	22万2362トン	16.8%
	音更	2787ha	65.27トン	18万1878トン	16.2%
	士幌	2112ha	57.90トン	12万2316トン	16.2%
	上士幌	764ha	59.26トン	4万5279トン	16.8%
	鹿追	1089ha	62.81トン	6万8426トン	16.9%
	新得	251ha	58.70トン	1万4712トン	17.4%
	清水	1225ha	59.50トン	7万2919トン	17.0%
	芽室	2746ha	67.25トン	18万4649トン	16.4%
	中札内	1107ha	71.17トン	7万8763トン	16.6%
	更別	1671ha	67.45トン	11万2702トン	17.0%
	大樹	510ha	56.36トン	2万8743トン	16.8%
	広尾	174ha	50.14トン	8717トン	16.5%
	幕別	2138ha	66.94トン	14万3145トン	16.8%
	池田	1062ha	60.93トン	6万4737トン	16.5%
	豊頃	566ha	64.29トン	3万6382トン	16.8%
	本別	1301ha	53.09トン	6万9095トン	16.8%
	足寄	462ha	55.76トン	2万5740トン	16.4%
	陸別	87ha	43.21トン	3769トン	17.1%
	浦幌	1680ha	56.54トン	9万4982トン	17.1%
	十勝計	2万4961ha	63.27トン	157万9316トン	16.6%

管内の平均糖分は前年を0.9㌔上回る16.6%。全道的に5年ぶりの高糖分となったが、十勝は道内平均の17.2%に比べると糖度が低かった。

管内の市町村別の糖度は新得町に次いで陸別町と浦幌町が17.1%、更別村と清水町が17%で、17%以上を確保したのは5町村だった。最も低かったのは、音更町と士幌町の16.2%だった。

1㌔当たりの収量は、十勝平均が前年より1.89トン少ない63.27トン。トップは中札内村の71.17トンで、唯一の70トン台だった。次いで帯広市の68.88トン、更別村の67.45トンとなっている。

管内全体の作付面積は前年比426㌔減の2万4961㌔。十勝で作付面積が前年を上回ったのは大樹、広尾、本別、足寄、陸別、浦幌の6町で、多くの市町村では作付面積の減少が続いている。

総面積に占める直播（ちよくはん）の割合は前年比で6.5㌔上がり、19.3%だった。4月に発生した凍霜害で苗がダメージを受け、直播に切り替えた農家が多かったことや、本別町、芽室町などが独自の取り組みとして、直播の拡大を進めていることがあるとみられる。

凍霜害により直播率が高まったことが、十勝が道内他地域に比べ、糖度、収量が伸びなかった一因にもなっているようだ。